

子宮移植 容認を決定

日本医学会 慶大、臨床研究へ準備

日本医学会の検討委員会は14日、妊娠・出産を希望

する子宮がない女性に対し、子宮移植を認める報告書をまとめた。国内で実施例はないが、慶応大のグループが生まれつき子宮のないロキタンスキー症候群の女性らを対象に臨床研究を計画している。今後、開始に向けた手続きに入る。

▼3面Ⅱ第三の選択肢

国内で子宮がない女性
は、子宮筋腫やがんで子宮を摘出した人も含め、20、40代だけで推計約6万、7万人。ロキタンスキー症候群の女性は卵子をつくる卵巣はあるが子宮や膣がなく、4500人に1人ほどの割合で生まれてくる。

子宮移植は、子宮を移植して体外受精させた受精卵を入れる。移植後の拒絶反応を抑える免疫抑制剤が必

要になるため、出産が終われば子宮を摘出する。

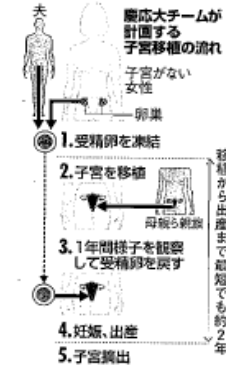
報告書では、脳死の人からの臓器提供が移植医療の基本だと強調した。だが、国内では脳死の人からの子宮の提供は臓器移植法で認められていない。そのため、少数の患者に限った臨床研究で、健康な人が子宮

を提供する生体移植を容認した。提供者は、無償で自発的に同意することなどを条件とした。一方で、脳死の人からの移植ができるよう法改正も提言した。報告書によると、子宮移植の報告は3月までに16カ国で85例あり、40例で出産に至っている。(市野堯、神宮司実玲)

子を授かる「第三の選択肢」

子宮移植容認

子宮のない人が出産できるようにする子宮移植が、日本でも実現に向けて動き出した。是非を議論してきた日本医学会の検討委員会が、容認する考えをまとめた。命を救う目的ではないこの移植医療は、手術に伴う危険があり、慎重論もある。なぜ必要とされ、どんな課題があるのか。



生体移植 双方にリスクも

子宮移植は養子縁組、代理出産に続く「第三の選択肢」として海外で2000年代から試みられてきた。スウェーデンや米国で計40例の出産が報告されているが、まだ実験的な段階だ。日本医学会の検討委員会が子宮移植の議論を始めたのは19年4月。報告書を公表した14日の会見で、飯野正光委員長は「非常に複雑なセンシティブな問題に解きがあるのだろうか」と不安を口にした。委員の中で意見が対立することもあったが、建設的な議論ができたと思ふ」と述べた。

最大の論点は、患者の救命とは異なる「出産」という目的のために、提供者が亡くなるリスクもある移植医療が許容されるのか、という点だ。

海外では3月までに報告された85例中63例が、健康な人から子宮を提供してもらった生体移植だ。ほか22例は臓器の人からの提供だ。今回の議論では、委員長は「臓器の提供は、委員長の経験から、まずはお腹の人からの提供に頼るべきだ」という意見が出たという。

一方、子宮移植という選択ができることで、提供者にならざるを得ない人々、重圧がかかる懸念もある。だが、国内では臓器の人からの子宮の提供は臓器移植法で認められていない。将来認められたとしても、国内では臓器の人からの臓器提供が少なく、計画的な手術は難しいとみられる。生体移植は、肝臓や腎臓などで実施されているが、提供者が死に事故も起きている。子宮の摘出手術は6〜10時間かかり、大量出血の恐れもある。肝臓や腎臓よりも手術のリスクは大きいとされる。

こうしたことから、検討

当事者「希望と可能性」

九州地方に住む30代女性が生まれて3年が経たないロキタンスキ・症候群だと診断されたのは、高校生のときだった。生理由来のため、疑問に思っていたのがきつかけだった。友人に打ち明けられ、母親にも「負い目」を感じさせたくなく将来の不安などの相談はしづかった。20代になり、まわりが結婚し始めるにつれ、つらい気持ちが増した。

3年前、子宮移植の存在を知った。自分のおなかで子どもを育てられる可能性があると思うと、本意にうれしかった。自分が受けるかわからないが、希望と可能性は感じる」と話す。

子宮がない人が子どもをもつには、これまでは養子縁組が代産出産が選択された。しかし、いずれもハ

子宮移植で生じる可能性があるリスク

子宮を提供する人

- 手術合併症（出血、感染、排尿障害、ほかの臓器の障害など）

子宮の提供を受けて出産する人

- 手術合併症（出血、感染、排尿障害、ほかの臓器の障害など）
- 拒絶反応
- 免疫抑制剤による副作用
- 流産、早産
- 帝王切開

生まれる赤ちゃん

- 免疫抑制剤による影響
- 早産

最大の論点は、患者の救命とは異なる「出産」という目的のために、提供者が亡くなるリスクもある移植医療が許容されるのか、という点だ。

海外では3月までに報告された85例中63例が、健康な人から子宮を提供してもらった生体移植だ。ほか22例は臓器の人からの提供だ。今回の議論では、委員長は「臓器の提供は、委員長の経験から、まずはお腹の人からの提供に頼るべきだ」という意見が出たという。

一方、子宮移植という選択ができることで、提供者にならざるを得ない人々、重圧がかかる懸念もある。だが、国内では臓器の人からの子宮の提供は臓器移植法で認められていない。将来認められたとしても、国内では臓器の人からの臓器提供が少なく、計画的な手術は難しいとみられる。生体移植は、肝臓や腎臓などで実施されているが、提供者が死に事故も起きている。子宮の摘出手術は6〜10時間かかり、大量出血の恐れもある。肝臓や腎臓よりも手術のリスクは大きいとされる。

こうしたことから、検討

日本医学会

子宮移植容認を発表

臨床研究 慶大チーム申請へ

病氣により子宮がない女性
性が妊娠、出産するため、
第三者から提供を受ける子
宮移植の可否を検討してい
た日本医学会の検討委員会
は14日、症例数を少数に限
定した臨床研究を容認する
との報告書をまとめ、発表
した。これを受け、慶大の
チームが、国内初となる
臨床研究を学内の倫理委員
会に申請する方針だ。

の対象外で、脳死を含めた
死者からの移植は認められ
ていない。このため、同大
は、生まれつき子宮がない
「ロキタンスキー症候群」
の患者を対象に、親族から
の子宮移植を計画。これを
機に、日本医学会が201
9年4月から倫理的、医学
的課題を議論してきた。

国内で法律上の実子を得る
唯一の方法であると指摘。
当事者の希望がある場合に
は排除できないとして「症
例数を少数に限定して容認
する」とした。

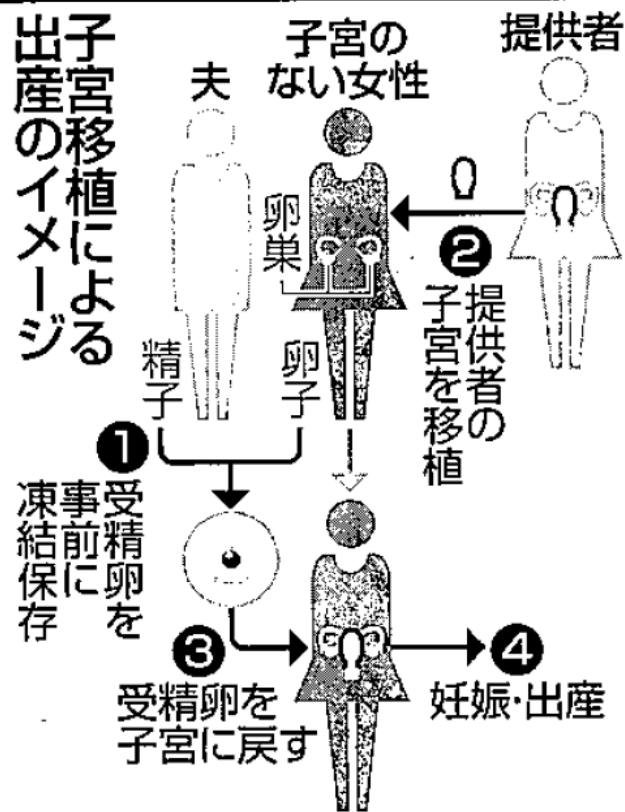
一方、生体からの子宮移
植は提供者への負担が大き
く、生まれてくる子どもへ
の影響やリスクも十分明ら
かにされていない「未成熟
な医療技術」と明記。臨床
研究の実施にあたっては、

提供者の自由意
れ、自発的に無
意していること
とした。新たに
婦人科学会と日
の合同委員会に

【ブリュッセル】欧州連合（EU）の執行機関・欧州委員会、ハイブリッドガソリン車の新035年から事実上方針を明らかにし、すでに温室効果

子宮移植、条件付き容認

日本医学会 慶大が実施計画申請へ



がん治療などで子宮を失った20～30代の女性は国内に約6万人いるとき

している。

患者の母親ら親族を想定

申請する方針。提供者は

を同大学の倫理委員会に

初の臨床研究の実施計画

象に子宮を移植する国内

チームは近く、生まれつ

き子宮のないロキタンス

キー症候群の女性らに対

これを受け、慶応大の

めた。

を容認する報告書をまと

は14日、条件付きで実施

する「子宮移植」を巡り、

日本医学会の検討委員会

が出産できるようにする

ため第三者の子宮を移植

病気で子宮がない女性

新たな方法として期待

た女性が子どもを授か

れる。子宮移植はこう

現在の臓器移植法

療。出産は帝王切開に

る。

を授けて出産を図る

ら提供された子宮の移

結保存した後、第三者

性から事前に卵子を

取し、体外受精させて

病気で子宮がない

▼子宮移植 先天的

国内で子宮移植 臨床研究を容認

日本医学会

子宮がない女性に第三者から移植し、出産を目指す「子宮移植」について、日本医学会の倫理検討委員会は14日、国内で臨床研究の実施を容認するとの報告書を公表した。東京都内で記者会見した委員長の飯野正光・東京大特命教授は「容認するが、出産が女性にとって必須の役割とみなす社会の圧力が増さないよう注意が必要だ」と強調した。

検討委は、生殖▽移植医療▽生命倫理▽刑法学——などの専門家14人で構成し、2019年4月に設置された。生体間で移植する

場合、子宮摘出手術を受けるドナー側のリスクの大きさなどが主な論点となっていた。

報告書によると、「現時点で子宮移植を実施する環境にはないが、仮に認めるなら脳死者からの提供に限るべきだ」との否定的な意見が2人から出た。しかし、その他の委員からは「移植を希望する患者がいる限り、生体間移植を排除できない」といった意見が多数を占めた。ただし、「ドナーが自由意思に基づいて提供することが最も重要」としている。

国内では、慶応大のチームが22年にも臨床研究開始に向け準備を進めている。

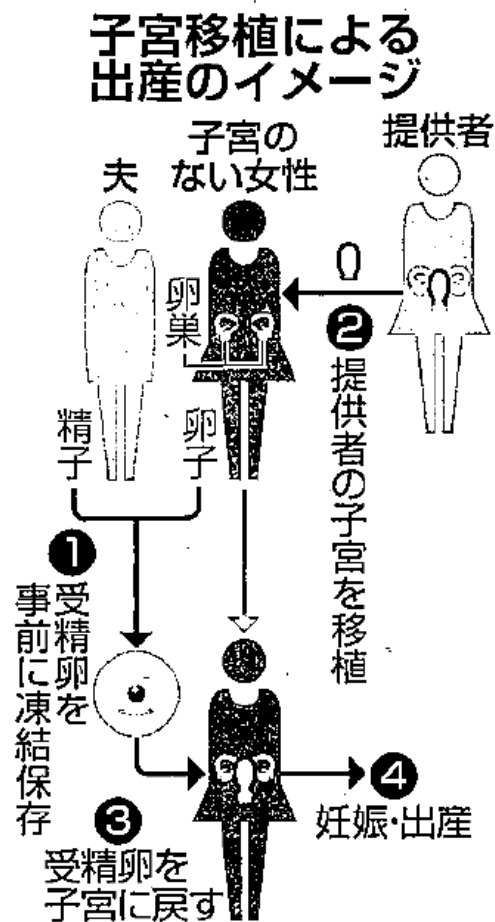
【渡辺諒】

子宮移植 条件付き容認

日本医学会 慶大、臨床計画申請へ

病気で子宮がない女性が
出産できるようにするため
第三者の子宮を移植する
「子宮移植」をめぐり、日
本医学会の検討委員会は14
日、条件付きで実施を容認
する報告書をまとめた。こ
れを受け、慶応大のチーム

は近く、生まれつき子宮の
ないロキタンスキー症候群
の女性らを対象に子宮を移
植する国内初の臨床研究の
実施計画を同大学の倫理委
員会に申請する方針。提供
者は患者の母親ら親族を想
定している。



がん治療などで子宮を失
った20〜30代の女性は国内
に約6万人いるとされる。
子宮移植はこうした女性が
子供を授かる新たな方法
として期待される。一方
で、出産のために、健康な
提供者から手術で子宮を摘
出することへの慎重論もあ
る。

報告書では、条件として
ロキタンスキー症候群の患
者の診断や治療などで総合
的に支援する体制を関係学
会が整えることを挙げた。
政府などに向けて、移植医
療の原則である脳死提供者
からの移植ができるような

国内で子宮移植 臨床研究を容認

日本医学会

子宮がない女性に第三者から移植し、出産を目指す「子宮移植」について、日本医学会の倫理検討委員会は14日、国内で臨床研究の実施を容認するとの報告書を公表した。東京都内で記者会見した委員長の飯野正光・東京大特命教授は「容認するが、出産が女性にとって必須の役割とみなす社会の圧力が増さないよう注意が必要だ」と強調した。

検討委は、生殖▽移植医療▽生命倫理▽刑法学――の専門家4人で構成

場合、子宮摘出手術を受けるドナー側のリスクの大きさなどが主な論点となっていた。

報告書によると、「現時点で子宮移植を実施する環境にはないが、仮に認めるなら脳死者からの提供に限るべきだ」との否定的な意見が2人から出た。しかし、その他の委員からは「移植を希望する患者がいる限り、生体間移植を排除できない」といった意見が多数を占めた。ただし、「ドナーが自由意思に基づいて提供することが最も重要」としている。

国内では、慶応大のチーフが12月ごろ臨床研究開始